

## 子どもが遊びを創る遊び場

### ——にしなりジャガピーパーク訪問記

魅力ある子育て環境を町の活性化につなげようと、大阪市西成区ではプレーパーク事業を推進しています。来場者年間1万人を超える遊び場があると聞き、訪ねました。



#### 遊びが引き出す子どものパワー

末広 隆

にしなりジャガピーパークは木津川寄り、西成区西方の津守にあります。閉校・閉園となった小学校・幼稚園の跡地を利用しています。プレイワーカーの根岸基子さんに、お話を聞かせてもらいました。

現在のプレーパーク事業は、大阪教育文化振興財団・こどもの里・あそぼパーク projectの共同事業体が運営。地域とともにスタッフ、ボランティアさんで、にしなりジャガピーパークを開催しています。1日100人から多いときでは200人の子どもが保護者と集まって来るそうです。トライアル実施から現在7年目になります。遊ぶ道具はいろんな人のアイデアから始まり、子どもたちの思いが形を変え、遊び方を作り、子どもなりの自由なやり方ができ上がっています。決して他の子を押しのけてすることはなく、皆他の子と距離を保ちながら、今、夢中になれることを一心不乱にやっています。どこまでして良いのか、どこまでやれるのか、遊びの限界に挑んでいるかのようです。

ボランティアの一人、池田一安さんはタオルで鉢巻をし、日焼けした顔で砂場の子どもたちを見守っています。篤職だった経験を生かして、遊具づくりを引き受けています。広い校庭には元々あったジャングルジム、鉄棒、畑のほかに、ターザンロープ、木工所（子どもたちが自由に工作やペンキ塗りができる）、水を使える砂場、やきやきエリアなどがあり、好きなだけ遊べます。校庭の一隅に、10mもあるようなブランコが木の枝から吊り下げられていました。子どもが座ってグルグルと何回もロープを捻っています。池田さんのアイデアです。池田さんによると、たくさんアイデアを出すけど、あまり危険なものは採用されないと残



プレイワーカーの根岸さん



ボランティアの池田さん



ミニ・バスケットコーナー

念そうな表情でした。

遊びが子どもの持つパワーを引き出し、家庭では分らない力、体から溢れんばかりのエネルギーを感じます。今、夢中になれることをとことんやる。子どもがそうであるように、大人もそうありたいと思います。

#### かけがえのない子ども時代の遊び

近藤敦子

根岸さんはジャガピーパークの趣旨について、次のように語ります。

「大切にしているのは、子どもが遊ぶということを最大限に保障していくことです。そのためには、大人の価値観で子どもの遊びを制止しない。もちろん命にかかわるようなことは止めますが。」「また、これは私の思いですが、子ども時代の豊かな遊び経験は、辛いことなどがあっても、なんとかなるさと思える糧や力の源だと思っています。人生人それぞれですが、死ぬときに“ああ楽しい人生だったな”と思えるように生きること。遊びにはそれを支える力がある。根っこにそんな思いがあるんです。」

西成区では「すべてはこどもたちのために」という方針を掲げ、子どもに優しい町づくりを目指しています。

#### ◎子どもの声 小学5年生男の子

「もう500回くらい来た(!?)。最初はお兄ちゃんと一緒に。ブランコがあったり、サッカーができたり、なんか作ったり。塾?行ってへん。日曜日は一日遊ぶことがある。ここは知らん友だちとも仲良くなれるからすっごく楽しい。」